

知っちょる？ 統計やまぐち

126 県人口の 100 年の変化 令和 4 年 2 月 17 日掲載

昨年 11 月、令和 2（2020）年 10 月に実施された国勢調査の結果が公表されました。国勢調査は、日本国内に住む全ての人と世帯を対象として 5 年に 1 度実施されるわが国最大の統計調査です。第 1 回の調査は大正 9（1920）年に行われ、令和 2 年は開始 100 年の節目の調査となりました。

この 100 年で、山口県の人口はどのように変化したのでしょうか。

県人口は、令和 2 年は約 134 万 2 千人となりました。大正 9 年は、約 104 万 1 千人でした。100 年前と比べて約 30 万人増えていますが、約 160 万 2 千人だった昭和 60（1985）年以降減少が続いています。前回の平成 27（2015）年からの人口減少率は 4・5%と、これまでで最大の減少幅となりました。

男女別に年齢ごとの人口をグラフ化した人口ピラミッドを見てみましょう。

大正 9 年は、年齢が低いほど人口は多く、高齢者が少ない「富士山型」に近い形になっています。令和 2 年は、第 1 次ベビーブーム期の 70 歳から 74 歳と第 2 次ベビーブーム期の 45 歳から 49 歳までの大きなふくらみが二つありますが、「つぼ型」に近く、少子高齢化が進んでいることが現れています。

人口の多い第 1 次ベビーブーム期の人たちが、高齢者として豊かに生活していただくための各種対策が現在講じられています。このような施策が必要になるなどと 100 年前に考えられていたのでしょうか。

このように国勢調査の結果は、社会の少し先を見越して対策を講じることなどに役立てられています。

